

第 1 回 総 合 教 育 会 議

平成 3 0 年 1 月 3 1 日 (水)

第 1 回 岬 町 総 合 教 育 会 議

日 時 平成30年1月31日（水）午後 1時30分開会—午後 3時20分閉会
場 所 役場3階 第2委員会室

出席委員 羽畑教育委員、奥野教育委員、宮川教育委員、中口教育委員

出席理事者 田代町長、笠間教育長、竹下教育次長、澤学校教育課長、保田指導課参事、
北野指導課参事、西総務部長、寺田企画地方創生課長、本川企画地方創生課員

案 件

- (1) 岬町教育大綱の推進（主な成果と課題）について
- (2) その他

配付資料

資料1 岬町教育大綱の推進（主な成果と課題）について

追加資料 平成28年度全国学力・学習状況から見る小・中学校別状況と今後の施策について

いじめ・不登校・暴力行為の状況と施策について

(午後 1時30分 開会)

寺田企画地方創生課長 皆さん、こんにちは。時間になりましたので、これより平成29年度第1回岬町総合教育会議を始めさせていただきます。

本日、会議の進行を務めさせていただきます、岬町の企画地方創生課課長の寺田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、初めに配付資料を確認させていただきます。

まず、議事次第でございます。

次に、資料1としまして、岬町の教育大綱の推進について（主な成果と課題）になります。

以上、不足等はございませんでしょうか。

それでは、ないようですので、初めに、町長より挨拶をお願い申し上げます。

田代町長 皆様、こんにちは。岬町長の田代でございます。

本日は平成29年度第1回総合教育会議に御出席をいただき、まことにありがとうございます。また、笠間教育長を初め、教育委員の皆様方には、平素から本町の教育の充実、発展のために多大な御尽力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

さて、この総合教育会議も今年度で設置して早いもので3年目を迎えます。会議を重ねるごとに教育委員と町長が自由闊達な御意見を交換する場として、非常に有意義なものであると感じております。本年も引き続き、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、教育部局と連携の強化を図りながら、総合教育会議を運営してまいりたいと考えております。

本町の将来を担う大切な児童・生徒の皆さんが一人一人の持つ力を十分発揮し、豊かな心と生きていく力を身につけられるよう、実り多き会議となることを祈念するとともに、教育委員の皆様の多様な視点から教育に対する活発な御意見をいただきますよう、重ねてお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。本日は何とぞよろしくお願いいたします。

寺田企画地方創生課長 ありがとうございました。

次に、笠間教育長より挨拶をお願いしたいと思います。

笠間教育長 皆さん、改めまして、こんにちはでございます。よろしくお願いいたします。

平成29年度の総合教育会議の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げたいと思います。

本当に時間の経過というのは非常に早いものでございまして、もう1月が過ぎようとしております。この冬は、先週から特に強烈な寒波の襲来で非常に寒い日が続いております。学校現場でもインフルエンザやら、また風邪の蔓延というようなことで、学級閉鎖も毎週、毎日報告いただいておりますけれども、まだ続いている状態でございます。一日も早く終えんすればいいなというふうに思っているところでございます。

教育委員会では、「子供が輝く岬町の教育」、これを目標に掲げておりまして、安全・安心で子供が豊かに学ぶことのできる場として、重要な役割を果たしております。そして、各学校園の環境整備、並びに有効な支援方策の検討改善についても、真摯に取り組んできたところでございます。中でも、この総合教育会議を通じまして、町長の方針にもよりまして、教育環境を整備しようということで、また年度末には、エアコンの設備も全ての学校にできるよう、順調に進んでいるところでございます。耐震も平成27年度、要するに28年の3月に終了しまして、学校の環境はどんどんどんどんよくなっておるわけでございますけれども、この環境の向上を機にしまして、より一層学力の向上、そして学校生活の充実に努めてまいりたいというふうに考えております。

本日は、学校での主な取り組みの成果、そして平成32年度から導入されます新学習指導要領の見直し、それらの喫緊の課題につきまして報告、説明をさせていただきまして、建設的で闊達な意見交換をお願いしたいと思います。

町長にもお忙しい中、出席いただいております。町長のほう、主催になりますけれども、本日はよろしく願いたいというふうに思います。ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

寺田企画地方創生課長 ありがとうございます。この総合教育会議については、岬町総合教育会議設置要綱の規定により、町長が招集し、総合教育会議の議長となることとなっております。以降の会議の進行につきましては、議長の田代町長をお願いいたします。

それでは、町長、よろしくお願いいたします。

田代町長 それでは、会議を進めます。

案件に入る前に会議の公開について、確認します。

会議については、要綱第6条の規定に基づき、個人の秘密を保つため必要があると認めるとき、その他公益上必要があると認めるとき以外は、公開となります。

本日の案件については、一部、非公開とする案件がございます。非公開部分については、傍聴者の入室は認めませんので退室いただくこととなります。

よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

田代町長 事務局に確認をいたします。

本日の傍聴希望の状況について報告してください。

事務局 本日、傍聴の申し込みが行われておりますので、これ以降の会議について、傍聴者に入室いただきます。

しばらくお待ちください。

それでは、議長、会議の進行をお願いします。

田代町長 それでは、会議を進めさせていただきます。

案件1、岬町教育大綱の推進（主な成果と課題）について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局、どうぞ。

澤学校教育課長 学校教育課指導課の澤です。よろしくお願いします。

それでは、議題1、岬町教育大綱の推進（主な成果と課題）についてということで、岬町教育大綱に定められております主な項目について、平成29年度における推進状況について、御説明させていただきたいと思います。

説明につきましては、パワーポイント、スライドを使って説明をさせていただきますけれども、あわせてお手元に資料をお配りしておりますので、それとあわせて説明を聞いていただけるとありがたいと思います。

説明につきましては、指導課の保田参事より、お願いします。

保田指導課参事 指導課、保田です。よろしくお願いします。

岬町の教育大綱の推進について報告させていただきます。主に、今年度平成29年度の成果、それと課題についてもお話しさせていただけたらと思っております。

この教育大綱につきましては、平成27年度より少子化、高齢化、核家族化の進行、グローバル化、情報通信技術の発展、経済・社会構造の変化など、さらなる時代の変化に対応した新しい取り組みが求められている中で、大綱を策定しております。これにつきましては、この対象期間は5年になっておりますが、その状況、必要に応じて大綱の見直しを図っていくということになっております。平成27年度からスタートしておりますので、今回3年目に入るということになります。この教育大綱ですけれども、大きな柱を5つ掲げております。5つの基本方針を打ち出した中で、見直しであったり、点検をしていく機会

を設けております。

それでは、主な成果と課題について、報告させていただきます。

まず、岬町の教育を進めていく前に、今後の教育の流れについて説明させていただきます。今、教育は変化を伴う時期に差しかかっているんですけれども、来年度より小学校の教科、特別の教科、道徳がスタートしていきます。平成31年度からは続いて、中学校の道徳が教科として実施されていきます。道徳につきましては、今まで普通の授業で活動として実施をしてきたんですけれども、来年からは教科書がつきます。ことしについては、平成29年度教科書採択を行っておりますので、来年から小学校は教科書がついた道徳の授業というのが行われていきます。平成32年度、オリンピックイヤーの年に、小学校の新学習指導要領の改訂があり、全面実施となっていきます。

今回の新学習指導要領の大きな内容としまして、小学校の3、4年生、外国語活動。これは現在5、6年生が実施しているものなんですけれども、それを3、4年生まで英語活動を持っていくということになります。また、5、6年生につきましては、教科になります。外国語科という形で評価もここに入ってくるということになります。全面実施は32年度からですが、もう来年から移行期間としまして、先行実施となります。来年からは、3、4年生、5、6年生、英語の授業、外国語の授業がスタートすることになります。この準備につきましては、また後で報告させていただきます。

あわせて、中学校につきましては、平成33年度より、この新学習指導要領の全面実施となります。小学校の後、1年後に中学校が、道徳もそうですけれども、全面実施が1年後に入ってくるという形になります。これから先行実施も含めまして、各学校では準備をしていっている段階になっています。

また、この新しく加わっていく中で、主体的、対話的で深い学び、アクティブラーニングの推進を進めていこうという形になっています。それとプログラミング教育です。これについては、まだ具体的な中身についてはまだまだですけれども、新しい情報化であったり、世界の流れに合わせていくための必要とする教育というふうにさまざまな内容が32年度から組み込まれていく予定になっています。

幼稚園につきましては、来年度から全面実施がスタートしていきます。小学校、中学校とともに順番を追って、1年ごとに移行期間、全面実施という形になっていきます。ですので、平成29年、30年、31年、32年と4年にかけて、新しい教科書、教科書採択、教科書検定というものが今後、行われていくこととなります。

それでは、今回のこの改訂の背景について、簡単に御説明させていただきます。

私たちが今、研修等でよく言われていますのが、世界、社会が大きく変化していくということです。知識、情報、技術をめぐる変化の速さが加速的です。情報化、グローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展していくということで、最近では、AIという言葉が使われたり、情報化など予測できない変化が子供たちも大人も対応していかなければならない状況になっていきます。ただ、そのためには、今の子供たちが他者と一緒に生きて、課題を解決していくための力を育成していく必要があると言われていています。やはり機械だけを取り扱うのではなく、その機械を通して人と人がかかわっていく、課題を解決していくというような社会をつくり上げていくということも言われています。

この指導要領の改訂ですけれども、二、三年後の子供たちの目標を立てたものではありません。20年後、30年後の社会を見据えたときに、子供たちにどういう力をつけていくべきなのか。今、12歳の子供が20年後になれば32歳です。その人たちが社会の中で生き生きと生活していける、そういうものを想定した中で描いているこの改訂の背景になります。

教育の中で何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶか、これは子供が主語になっています。今までの改訂につきましては、教師が何をするか、教師が子供に何をしていくのかというような、先生が主語になっていたんですけれども、今度は子供が主語になってきています。子供がやっぱり主体的に学んでいく、何を学んでいくのか、どのように学んでいくのかというものを掲げているものになるんですけれども、岬町の子供たちがよりよい社会をつくるという目標を共有して、社会と連携、協働しながら、未来の作り手となるための資質、能力を育む実現に向けて、今後も教育を進めていきたいと思っています。

主体的・対話的、深い学びというふうな授業形態は、今まで教育の中で行われた授業形態とは大きく異なってきます。私も含めまして、以前の授業形態というのは、一斉に前を向いて、先生の授業を中心に聞いていく、講話を聞く、学んでいくというような形態が多かったんですけれども、最近では、子供たちが中心に学んでいく、子供たちで深い学びをしていくというような授業形態をどんどん進めていきます。今、大学でもそうです。以前は大きな講堂で大学生が大学の先生の教授の話を90分聞くという状況が多かったんですけれども、最近では、少人数で大学生が円になって、グループ討議をしていくというような授業展開もなされています。入試の中身についても、今までマークシートだけであった

ものが、記述式になってきて、しっかり考えないと書けないというような問題になってきています。大きな変化の中で、これは小学校の間からこのような授業形態を持っていくという中身になっています。

ただし、この授業を実施していくに当たり、教師がやはり指導力、授業力を上げていかないと、この授業を展開していくのは非常に難しいものとなってきますので、これにつきましては、教員の資質向上というところが大きな課題となってきています。

プログラミング教育にも新しい取り組みがこれに加わってきます。今現在、具体的な教育方法についてはこれからになりますが、情報化の社会の中でプログラミング教育とは、コンピューターに意図した処理を行うように指示することができないということを経験させながら、将来どのような職業につくとしても、時代を超えて普遍的に求められる力として、プログラミング的思考などを育成するものというふうに、今こちらのほうで提示させていただいてありますが、子供たちのこのプログラミング教育の知識であったり、技能は身近な生活の中でコンピューターが活用されることや、問題の解決には必要な手順があるということに気づいていくというところを小学校の間から深めていくというふうに言われています。そのために、必要な条件整備等今後にも必要になってくるというふうに考えられます。

それでは、岬町の子供たちの状況について、お話しさせていただきます。スライド番号9番です。済みません。こちらにつきましては、お手元の資料はございません。スライドのほうをごらんください。済みません。

全国学力学習状況調査。これは小学校6年生対象で、2教科です。国語と算数の2教科になっています。国語のAというものは、基礎的な力。Bにつきましては、活用であったり、応用問題の力ということです。このテストに関しましては、平成19年度から、もう10年になっていますけれども、この成績を推移したものがこのグラフになっております。大阪府の平均の対比になっています。岬町におきましては、平成26年度から町のほうで小学校の実力テストのほうを実施させていただいております。これについては、テストを行うだけではなく、この結果をもとに教員がどういう力をつけることが必要なのか、その後の子供たちの弱い部分をしっかりフォローしていくプリント学習などを整備した上で取り組んでまいりました。平成26年から右肩上がりに上がっているのは、小学校のフォローであったり、このテストの結果が大きくあらわれてきているものだと思っております。

続いて、中学校になります。過去10年間を推移して見ますと、平成26年、平成27

年は上昇していく傾向になっておりますが、この数字が今後安定し、継続していけるように学校の授業改善であったり、研修、分析を丁寧に行っていく必要があると考えられます。どのような状況であっても一定した充実した授業が実施できるように今後とも働きかけていきたいと思っております。

来年度につきましては、ここにあわせて理科が加わります。理科についても4年に一度に実施になっていますので、来年度は理科、小学校も合わせて入ります。その次の年につきましては、中学校は英語のテストが実施される予定になっています。

平成32年度からの新しい改訂に向けて、学校のほうではもう既に準備を進めてきております。これは淡輪小学校の先生方の研修の様子になります。これは資料にはございませんが、今、前のスライドにある写真が3枚ありますが、これはきょうの3時間目にちょうど深日小学校で授業をしてきた。これは、小学校5年生です。本日は、この3時間目、小学校で校内研修を行っています。深日小学校の先生方が全員、この教室に入って、授業の見学をしています。この授業の見学の後、必ず放課後に先生方で振り返りをして、どういう学びであったのかというところを反省を含めて、次への手だてを考えていく授業研修を実施しています。

また、新たに岬町では保幼小連携、小中連携ということで、本当に保育所・幼稚園からの連携というのが非常に密になってきています。この写真は、右側の写真、2つあるんですけども、右上は保育所と小学校の触れ合っている場です。もう一つの写真は中学校の先生が小学校で理科の授業を実施しているというところで、この連携を通して、授業をどんどん進めていこうという流れになってきています。

それと来年度から移行期間ということで、外国語活動を推進していくこととなりますが、昨年度から「DREAM」、岬町ではDVDデッキの設置であったり、この「DREAM」のDVDの各全クラスに設置をしていただきまして、授業の実施をしております。週に3回、朝15分の間に映像を流して、担任の先生と大きな声で歌ったり、英語の発音をしたり、英会話をしたりというような場面が入っています。子供たち、生き生きと活動しています。先生方もその英語を、小学校の先生が英語を進めていくというのは非常に抵抗があるんですけども、このDVDの活用をすることにより、発音であったりとか、どういうふうに楽しい英語活動をしていったらいいのかというのを、このDVDによって少し自信をつけてもらって、来年度からの先行実施に向けて、スタートしていただきたいな思っています。もう先生よりも子供たちのほうがすごく言葉がネイティブで、発音がすごく

いいのが、さすが子供たちだなというふうに思っております。

また、主体的・対話的で深い学びの推進というところです。本日、行ってきましたこの深日小学校の子供たちの様子なんですけれども、一番左は、机を前に向けて先生のほうを向いて授業を受けているという形になります。その中で、一人の子供が前に出てきて、自分の言葉で説明をする。こういう場面展開も授業の中で組み込んでくれています。また、この真ん中と右の写真は、この後、授業の途中からですけれども、机をひつつけて、子供たちの中でいろいろ問題を解決していくという、すごく発展的な授業も取り組んでいます。この授業を積み重ねることにより、子供たちが自分たちの気持ちを言葉にしたりとか、発表をする力であったり、今、非常に国語の力が弱いというふうに関西府のほうでも言われています。言葉の力を利用して、しっかりと子供たちが意見を言ったり、考えを述べる場面を設定していくというところがすごく大切になってきています。ただ、岬町につきましては、この全面実施があるからやっているというのではなく、以前よりこのグループ学習というところを本当にずっと進めてきています。中学校においても、もう長年においてこのグループ学習を中心に展開をしてきていることになります。この深い学びの学習形態が、最終的には先生方の授業力向上につなげ、そこで子供たちの学力がともにつながってついてくる。学力向上が必須となってくるようになるんですけれども、そのツールとして、こういう学習形態が大事になってきている。それも小中合わせて連携した取り組みを今後とも推進していく必要があると考えております。

欠かせないのが、地域のボランティアのサポートになっております。例年ですけれども、地域のボランティアの方がもう朝の挨拶運動であったり、いろんなところでサポートしていただいております。こちらは安全ボランティア活動、これは多奈川地区の写真になりますが、定例でいつも安全見守りをしていただいております。先日も道のことで気になる箇所を御指摘いただきまして、すぐに直していただいたという経緯もあります。本当に子供たちのことを考え、活動していただけているということで、特に多奈川小学校の中にこの安全ボランティアの活動の拠点が常にありますので、日ごろからたくさんの方が集まって、見守り活動をしていただいております。

この右側の写真になりますけれども、これは書家の橋逸勢の書道授業になっています。こちらについては、昨年に引き続き、行われています。

先日行われた写真をここに掲げていますが、今年度は特に夏休みから地域のボランティアを活用しまして、子供たちが本当に青少年センターに集まって活動している姿が多く見

受けられました。学校での学習以外でも地域の中で学ぶ場を設定してもらっています。

また、欠かせないのがこの自然豊かな環境というところですが、本当に子供たちは、もう教科書の中でしか学ぶことができないことも、地域ではあります。ただ、岬町に関しては、本当に自然を活用した授業展開、環境問題であったり、理科の観察授業であったりというふうに本当に環境を生かして学ぶ機会を得ています。先生方にとりましても、この化石観察については毎年、先生たちで岬町の中を歩き、学習している研修会を設けているところも出てきています。これを今後ともいろんな場で小学校、中学校合わせて、また展開をしていけるような取り組みも考えていきたいと思っています。

また、次はスライド16になりますが、安全安心でおいしい給食の提供・食育の推進ということで、この写真の一番左上になるんですけども、これは小学校1年生が初めて給食で魚を食べるといときに、栄養教諭が骨のとり方を教えてもらって、もうペロッと全部食べてもらえるような授業をきっちり1年生の間にしてくれる。魚も今は骨を抜いた給食を提示する場面も多いんですけども、あえて骨をつけた段階で給食に出して、そういう食べ方を学ぶ機会であったり、給食を通して、多くの食育を展開してくれています。また、地元の食材を使ったメニュー、タケノコやシイタケ、ワカメ、古代米など、子供たちにしっかり地域の食材を話した上で、子供たちとともに食事をしていくという展開もしています。

以前は子供の体力が岬町、低い状況が続いておりました。大阪府のサポート、和歌山大学との連携授業を実施していきました。授業の中に大学生が入ってもらったり、大学教授もその授業にも実際指導してもらおうという場面を去年はしていきました。昨年度は、深日小学校を中心に授業もしていく中で、きょうも深日小学校に行ってきましたけれども、保健室に来る児童が減ったということで、ちょうど15分の一番長い休憩時間にもうほとんどの子供がこんな寒いところで、グラウンドで縄跳びをしていると。体力向上することによって、子供たちの生活ががらっと変わったというふうに聞いております。

このサポート事業、昨年度は、大阪府の協力を得てサポートしてもらったんですけども、平成27年度から平成28年度にかけて、大きく変化をしています。これは全国の小学校5年生対象のテストの結果となっています。体力テストは8種目あります。1種目につきまして、10点満点換算されていきますので、その80点分の何点ということで、子供たち、測定結果を出してきたんですけども、その平均が岬町の男子では28年度は56.94、女子については54.91ということで、大きく伸びているということで、

昨年度は男子と女子のこの体力合計点数を合わせますと、大阪府ではもう上位の結果となりました。伸び率としては、岬町、多分一番伸び率ぐんと大きくなっています。これをやはり継続していくことがとても大事になってきています。平成29年度、今年度につきましては、まだ国からの結果は出ておりませんが、女子については平均値が56ぐらいの総合得点、平均がもうこちらの集計の結果出てきております。男子、少し下がって54点台にはなっているんですけども、多分この全国比を大きく上回り、体力の維持ができていっているのではないかとこのように考えています。

先ほどお話ししましたが、食べること、食育、それと体育、そういうところで子供たちの健康づくり、これにつきましては、子供だけではなく、家庭への働きかけということも今後、こちらでも考えていく必要があるなというふうに思っております。

続いて、施設の充実です。この3枚の写真は、ほかにもたくさん施設の充実はあるんですけども、この3点につきましては、やはりなかなかよそでは見られないような、見ることができないような環境というところがあります。この多奈川の芝生につきましても、こんなに長い期間、生き生きとした緑色の芝生が継続しているというのは、やはり地域の人のサポートであったり、手入れのもう本当に丁寧さが継続している結果のあらわれだと思っております。

次、スライド20番になりますが、先ほど教育長の話にありましたが、この施設の充実というところで、エアコンの小中学校全ての教室に完備する、設置するというところが、平成30年度からになりました。これにつきましては、数年前からこの6月、7月の教室の温度と湿度の計測をずっと学校のほうでしていただいております。今回、全面実施、全教室の設置ということで、もうきっと子供たちの環境が大きく変わるのではないかとこのように考えられます。エアコン設置によって、快適な環境づくりで子供たちが安心して授業が受けられるということで、今後、学力の向上であったりとか、学びの場が豊かになってくるということももう考えられます。

今後の予定なんですけれども、このエアコンを設置したということで、環境整備が整えられていく中で、先ほどから話しております新学習指導要領が小学校では道徳であったり、英語の授業がプラスオンになってきます。英語が入ったからといって、ほかの授業が削られるということになりませんので、時間数がふえるということになります。それに伴って、授業の時間数確保も考えていかなければなりません。また、今の時期ではインフルエンザで学級閉鎖がたくさんなっています。9月、10月では台風等で非常閉鎖があつて、学

校が休校になるということが今後、考えられてきますので、そういうことも踏まえて、授業数確保、子供たちの時間を確保して、落ちついた環境で学習していく場面を今後、検討していかなければなりません。その中で、考えられるのは、1つは夏休みの短縮の実施、近隣では1週間前倒しをして8月の25日から授業をしているという市もありますが、そういうことも含めて、今後検討していく必要があるというふうに考えられます。

さまざまな学習内容が変化していく中で、教室の環境整備も大切になってきています。次年度より、エアコンを完備していただくことで大きく子供たちの学習が変わっていくことには間違いありません。また、快適な環境で学ぶ姿を私たちもこれから想像することができるんですけども、それに伴って、環境が整うとともに、やはり教員の指導力の向上というのは必須となってきます。このスライド21のこの左の写真なんですけれども、これは多奈川小学校の国語の授業です。写真になっています。子供たちがテレビ画面に向かって説明をしている場面です。今ある電子機器をしっかりと小学校のほう、中学校のほうも使いこなしている状況であります。子供たちが豊かな学習を進めていこうと日々努力をさせていただいておりますが、昨年、こちらのほうでもお話しさせていただきましたが、書画カメラ、子供たちが手がきで書いたものをカメラの下に当てて、投影するというものが、こちらで紹介させてもらったんですけども、その後、何台か小学校にカメラをつけていただきました。先日の小学校の研修会も見に行ったり、ふだんの授業でもその書画カメラをふんだんに使って授業展開をしている、子供の深い学びが見受けられる場面がたくさんあります。

学校現場では、きょう私、このプレゼン資料をパワーポイントでスライドでつくっていますが、今、若い大学生も含め、教員もどんどんこういうプレゼン資料を使って、授業を展開していくというところが非常に多くなってきています。子供たちも今課題のある子供たちたくさんいます。視覚で見るというところで子供たちがしっかり理解できるという視聴覚教材、視覚の部分でいろんな授業展開もしてきているんですけども、これからは社会の変化に対応した環境、子供たちにとっても、教員にとってもプラスに働けていけるような、今後もサポートしていきたいというふうに思っています。

もちろんハードだけではなく、やっぱりソフト面、ソフト面というのは、やはり教員が子供たちにどんな力をつけたいのか、どういう授業をしたいのかという、まずそこからのスタートになると思います。私たちはそういうサポートを今後ともしていきながら、先生とともに、子供とともに学んでいく場を進めていきたいというふうに思っております。

主な成果と課題については、以上です。

田代町長 どうもありがとうございました。ただいまの事務局の説明に対して、御意見、御質問はございませんか。

宮川委員、どうぞ。

宮川委員 今後は、小学校、幼稚園も、町長が努力していただいて、今年度、エアコンが設置されるということで、教育長も校舎長会でもなるべく早くことしの8月から授業を1週間前倒しでやりたいということも説明して前向きに検討されていると思います。これによって、さっきから説明にあったように、災害時とかで授業時間が減った時に、授業確保ができるようになりますし、働き方改革、それにも追随して学校の先生の授業というか、時間が保てるようになると思いますので、ぜひ進めていっていただきたいと思います。

それともう1点、地域における施設ということで、我々、地域教育協議会で今年度、青少年センターを使わせていただきまして、事業展開したわけでございますけれども。あそこを起点にして、青少年センターに来ていた子供が、ちょっとヒントをくれまして、ちょっと考えてほしいと。本をあそこに置いてほしいなど、深日にはアップル館、淡輪は図書館があるんですけども、多奈川にそういうようなところがないので、あそこにも置いてほしいと。何冊か置いているんですけども、もうちょっと整備してほしいということで。空き部屋を利用して、松下課長らと相談させてもらっているんですけども、あの辺の空き部屋を利用して、いろんな事業展開出来ないかと。

それと勉強できる場所が欲しいということで、夏休み、何人かあそこで勉強に来るわけでございます。それで、あそこはエアコンがきいている部屋もありますし、土曜日、日曜日、あいていますので、そこを使わせてもらえたらありがたいなという声もありまして、いろんな事業も展開した中で、たくさんの子供たちが参加して、喜んでいただけたので、青少年センターを、もうちょっと有効活用できるように生涯学習課で進めていきますので、交通の利便性も考えますと、多奈川にあり、バスもあそこまで行っているということで、あそこをもう少し有効活用していきたいと思いますので、また町長のほうからもひとつ御尽力のほどお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

田代町長 施設の老朽化、また利用方法について御意見をいただきましたが、私は、できるだけ学校教育環境、または保育の環境をよくしていこうということに力点を置いてずっとこの8年間取り組んできました。財政が厳しい中、どこに予算を振り分けるかということが一番大事であって、特に子育て環境については、職員にも協力をいただいて、2%の給与カット

を行い、約2,000万円の財源を捻出し、これを保育行政に使わせていただきました。そういった中で、先ほど説明のあった電子黒板の導入や、深日小学校の芝生化整備を行い、保育所も併設いたしました。、駐車場のや、歩道の整備といった課題もあります。かなり深日小学校に力を入れて取り組んできました。また、深日小学校のトイレが、非常に暗いということで、子供たちが怖いというイメージを持っておりましたので、子供たちがトイレに行っても安心してトイレを使えるよう3階トイレも改修しました。さらに今後は、トイレを和式から洋式に変えていこうという取組を進めておりますが、そういった施設面のお話が出なかったのは少し残念だと思います。

それと私の手持ち資料の中では、ICTの環境整備の話が出ておりますけれども、このデータを見ますと、岬町と泉南市、阪南市が非常におくれているという結果になっているんですけれども、学校からこういった要望が出たのは、平成29年、今年になってからです。。それまではiPadがいいのではないかという話があつて、その辺をしっかりと整理してほしいということでお願いしておりましたが、財政的な問題と、十分その内容が精査できていないということで、見送っておりますが、こういったものに対する各担当からの要望があつて、私どもとしては、予算化していく、また整備していくということになりますので、非常にこのデータを見て、残念だなと思っております。

これらの問題については、今後、教育部局と十分連携をとらないといけないのかなと思います。青少年センターの活動について今初めて、本を置いてほしいというお話があつたかもしれませんが、もっと幅広く子供たちが夏休みでも使えるようにしてほしいということであれば、早くできるはずだと思います。耐震化などお金がかかるものは難しいかもしれませんが、空き部屋をうまく有効活用するということは、本を買って、それだけ本を読める、そういった環境をつくったらいいわけですから、今後検討をしたいと思っております。

これまでの学校教育関係の事業予算を見ていただければと思いますが、毎年設備も含めて、かなりの予算はつけてきたつもりですが、委員から発言のあった青少年センターでの子供向け図書室の件については、ぜひ担当のほうからそういう要望を上げていただきたいに思います。

ここで、ICTの取組について、説明をお願いしたいのですが、他の地域で整備ができていながらもかわらず、なぜここまで岬町の取組が遅れているのか。なぜ、29年度になって初めて要望が出てきたのか。以前に取組んだ空調については、当時の次長のから、データがなければ国に要望できないということで、まず室内温度はどのくらい上がるのかな

どの調査を行い、データをとっていく中で教室内の温度が30度を超えたという結果が出たことから、国に対して要望を上げた結果、国から事業を認めていただいて、補助金をつけていただくようになりました。取組を進めるためには、そういったデータの積み重ねということが必要と思います。、ICTについては、何度も言うようですけれども、新規事業として計上されたのは、この29年度だと記憶していますが、どうなのでしょう。

笠間教育長 今、町長のほうからお答えいただいたとおりでございます。確かに懸案事項としては、ずっと持っていたわけですけれども、新学習指導要領、これがやはりきっかけとなりまして、29年度には具体化していかねばということで上げさせていただきました。町長のほうもいろいろと設備については、検討をいただいているわけでございますので、1年ちょっと先送りでもしてでも、それまでもっと研究しながら、何とかいろんなものを検討して、31年度には、ICTを前に進めたいというふうにも思っております。そのときはまた再度お願いしたいというふうに考えております。ことしの懸案事項ではもう少し具体的な資料も添付して、コンピューターの価格とか、ソフトの価格、ソフトが非常にかかるようでございます。なかなか時代が変遷していく中で、このコンピューターの進化というのは、先ほどもAIのこととか、いろんなことが出ておりました。ICTにつきましても本当に我々の頭脳でなかなかついていけない部分もあるかもわかりませんが、これからの子供たちが、そのICTを使うことによって、就職活動やら、また上の学校へ行くときのいろいろな要素になり、非常に大切なものであるということを認識しながら、次年度におくれるかもわかりませんが、町のほうへも、財政のほうへも、町長のほうにも無理を言いながら、考えていきたいというふうに思います。

以上でございます。よろしく申し上げます。

田代町長 教育委員さんに御理解をしていただきたいのは、今、教育長から説明がありましたが、別の財源を使ってこれをやること、今年度取組むことはやぶさかではないんです。ただ、このICT整備については、補助制度があるのかなのか、そういったチェックもできていない。そういったものを精査し、補助金があるものは補助金を活用するなど制度をうまく活用するため、来年に見送ったということであって、財源が厳しくて対応できないということであって、来年に送ったのではありません。その点は、御理解をしていただきたいと思ます。

特別な財源を使う方法も私もありますが、財政の担当から見ると、補助制度があるのであればその点は、来年はきちりと対応したいと思っております。

ほかに御意見はございませんでしょうか。女性の委員さんのほうでは、ございませんでしょうか。何でも結構です。

羽畑先生。

羽畑委員 羽畑です。去年の運動会ですね、ずっと見て回ったんですけれども。特に、深日小学校へ行くと、和大学生が物すごく子供たちと一緒に楽しくやっているわけですね。そしたら、その保護者のほうが物すごく喜んでるんですよ。和歌山大学の学生が来てくれたと。子供の数が減っているんですけれども、大学生が中に入って一緒にやってくれるもんやから、物すごく子供も盛り上がり、そして、物すごく保護者が喜ぶ、いい運動会になりました。

こういうことは、もっと大きな目で見て、淡輪小学校も、できたら多奈川小学校もこうして和歌山の大学の学生と一緒に教育してくれないかなと、こういうような欲張りな考え方をしております。こういう点についても、ひとつ事務局のほうで一遍検討していただきたいなと思います。

私に、深日の小学校の保護者が手を合わすんですね。だから、淡輪小学校や多奈川小学校も一緒にやったら、もっとよくなるなというような気持ちになりましたので、その辺もよろしくお願ひしたいなと思います。

以上です。

田代町長 今、羽畑委員から、各学校の中で大学生が来て、大いににぎわいを示していただいているという御意見があったんですけれども、企画のほうに確認をお願いしたい。岬町では地方創生事業に取り組んでから、子供の数は増えているのか、減ってるのか。その点についてのデータを皆さんに説明していただきたい。

西部長。

西総務部長 総務部の西でございます。地方創生の取り組みというのは、平成27年から行ってまして、出生数からいきますと、年々回復傾向にございます。また、1月29日に住民基本台帳の移動状況調査というのが国のほうから公表されたんですけれども、それを見ますと、30歳代、それから14歳以下の子供というか、年齢層の転入について超過、転入のほうが転出よりも多いという結果が出ておまして、それも前年よりもはるかに大きな数字で、特に子供の転入がふえてきているという状況にあります。これは一時的なものかどうかというのはわからないんですけれども、地方創生の取り組みで子育て支援とか、それから教育環境の充実、やはりこういうのが徐々に浸透してきているのではないかなというふうに地方創生の担当としては、考えております。

今後もこのペースを維持することによって、昨年、いわゆる社会増減でいきますと、マイナスの37という数字になっていたんですけども、一時は180とか、そんなマイナスやったやつが、ここ数年でマイナス37まで戻ってきています。何とか担当としては、社会増減ゼロまで持っていきたいなということで、引き続いてやっていきたいと思うんですけども、やはり子育て世帯を受け入れるためには、教育環境、教育の充実というのが非常に大切だと考えておりますので、教育委員会の皆様方におきましても、引き続き、御支援いただきたいというふうに考えております。

羽畑委員 去年の春、4月、淡輪地区は、物すごく子供がふえたんですよ。あれはどうしてですか。

田代町長 西部長。

西総務部長 その辺の分析はできておりませんが、出生数が今も言いましたように、かなりふえてきているということと、転入がやはりふえてきている傾向にあります。ただ、やはり地区によるばらつきがどうしてもございまして、淡輪は結構ふえるんですけども、深日、多奈川になると、やはりちょっとなかなか転入数が伸びないという、地区的な状況もあるかなと思っています。

田代町長 今の説明にあったように、少し子供がですね、転入がふえてきているということで、私も良かったと思っているところなんですけれども。

羽畑委員 望海坂の子供がふえているんです。

田代町長 どのぐらい。

羽畑委員 望海坂。

田代町長 望海坂がふえているのかな。全体。その辺ちょっと。

西総務部長 ちょっとその地区とかはわかっちはおらないんですけども、やはり淡輪のほうで、例えば海洋センターの入り口の住宅開発地とか、ああいうところに土地を購入されるというケースもふえております。望海坂についても、若い世帯の方が移られてきているというのはありますけれども、具体的な人数とかの把握というのはできておりません。

羽畑委員 淡輪だけじゃなしに、深日も。多奈川小学校の校区も人口がふえるよう。

田代町長 そうですね、できるだけ企画と連携をとりながら、深日、多奈川にも子供たちがふえるように、頑張っていきたいと思っておりますが、もう少し時間はかかるのかなと思ったりもします。

ほかにございませんでしょうか。どうぞ。奥野委員。

奥野委員 済みません。先ほど教えていただきましたように、ICT環境についてなんですけれど

も、この間、多奈川小学校に行きましたときにも、テレビモニターを使って、授業がなされていきました。そのときに私も教育委員会でも言ったんですけども、岬町にいるから勉強ができないのではなくて、大阪の端っこでも、頑張っってそういう状況を取り入れて、例えばLANだけでも、2年後にやっってくださいようなことを今も聞きましたので、環境を整えて、子供たちにそういう映像授業が身近にというふうになればいいなと思って。実際に自分の子供も今年、就職活動で、この間留学から帰ってきたんですけども。エントリーシートを書くのも全てパソコン、エントリーシートを登録したらすぐに1分間の動画を送りなさい。全てそういう状況になってきていますので、必要性に迫られているなど。本当にそれを早く取り入れていって、順応していくことが一番大事かなと思いますので、今のところはお聞きしたら、2年後にはということですので、どうぞよろしく願いいたします。

田代町長 今、財政と調整をしておりますが、8億円ほどお金が足りない状況です。それをどう振り分けるかということで、財政が非常に頭を悩ましておりまして、きょうも午後から大阪府へ相談に行っています。できるだけICTについては、進めていかなければということも私も認識をしています。ただ、これは担当課にお願いしたいんですけども、もっとその国の補助制度をうまく早くキャッチして、早くそれを要求していくというふうにしなないと、ICTすぐにやれと言っても、なかなか、補助金の裏づけがないものを町単独でということではできるだけ避けていくという方式をとっています。そうしないと、財政の立て直しはできませんので、そういう意味では、学校優先に、子供たちのことを優先に考えていこうということで、他の一般建設事業などは少し後回しにしているのが現状ですので、その点も理解していただきたいと思います。

ほかにございませんか。どうぞ。

笠間教育長 羽畑先生のお答えをちょっと補足しておきたいと思います。羽畑先生のほうから、御質問ございました、和大的件でございます。これにつきましては、平成28年の、要するに1年ちょっと前になりますけれども、包括連携ということで、岸和田から5市3町の教育長と和大的の学部長さんとの連携を提携しております。これにつきましては、淡輪小学校、多奈川小学校のことも言っていましたけれども、学校の先生が、スポーツテストのやり方というのを再度見直しするということで、子供たちの体力は劣っているわけではなく、やはりスポーツテストのやり方ということもあつたと思います。それで、非常に改善されたと。もともと体力もある子供たちが多いうふうになり自負しておりますので、現実

に、先生方のスポーツテストのあり方とか、そういうことも連携していただいているというところでございますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

また、定例の教育委員会のほうで、結果については、またお話しできるようにしたいと
思いますし、町長のほうへもその回答につきましては、結果については、資料としてお渡
ししていくというようなことを今後も続けていくということでお願ひしたいと
思います。

羽畑委員 深日小学校の保護者は、手を合わせているんですよ。もう若いのが来てくれたって
ことですね、運動会のときに。じゃあ、これ多奈川小学校でね。

田代町長 ほかにございませぬか。はい、どうぞ。

保田指導課参事 先ほどの体力向上の和歌山大学の件なんですけれども、昨年度は、深日小学校を
中心に1年間通してやってきました。体力向上で測定だけではなく、授業も入っていただ
きましたので、子供たちが本当に授業は体育が好きという子供がふえております。今年度
からは、新規事業で3つの小学校全てにこの和大学生を活用して授業を展開してもらおうと
いうことで、多奈川と淡輪につきましても、具体的な授業の打ち合わせをしてきておりま
す。2月には和大学生も1回の授業に五、六人の学生さんに来てもらって授業をしていくと
いうことで、数年、ここから来年もかけて進めていきたいというふうに思っています。

今年度は新規事業の中で講師謝金であったり、それと体力測定の器具も多く購入させて
もらいましたので、その機械も含めてさらに体力向上を目指して、体育が好きな子供を目
指して、取り組んでまいりたいと
思います。

田代町長 ありがとうございます。ほかに御質問はございませぬか。どうぞ。

中口委員 済みません。中口です。よろしくお願ひします。

先ほどスライドのほうで、小学校、中学校の全国学力学習状況調査の説明があったと思
うんですけれども、小学校のほうは学力の向上が安定して見られてきて、それは喜ばしい
ことだと思うんですけれども。残念ながら中学校のほうは、ちょうど私の子供が何年か中
学校にいる間で、自分の子供のこともあって気になるころなんですけれども、少し安定
していない状況があると思いますので、その年代の子供たちの学習能力もいろいろあると
思うんですけれども。中学校のほうでもある程度安定して、私の要望としては、大阪府の
平均を上回るぐらいの学力向上、特に中学校は高校受験というのが控えていますので、そ
れに向かっても学力を向上させていただけるように、将来的にICTなども活用できる場
面がふえてくるのではないかなと感じられましたので、そこら辺をよろしくお願ひしたい
と
思っています。

田代町長 これは学校教育の問題ですので、また指導課のほうでそういった中学校の生徒たちのレベルアップということについて、またいろいろと協議をしていただいて、努力していただきたいと思っています。

ほかにございませんか。どうぞ、宮川委員。

宮川委員 和太との運動の連携はできているんですけども、この前も教育長とお話しさせてもらったんですけども。ほかの大学とも、英語とか、そういうほかの学科においても、和太だけでもなくてもええと思うんです。いろんな近隣の大阪の大学との連携をできるように市町村の教育委員会で、南のほうでもよろしいんですけども、その辺を府教委に頼んで、橋渡ししていただいて。大阪体育大学も教育学部を新設されましたので、あの辺とも連携しながら英語とか、ほかの科目もそういうふうに大学生が活用できるようなシステムづくりをしていっていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

田代町長 教育長、はい。

笠間教育長 議長のほうから御指摘ございました。当然ですが、大阪府ですから、大阪府立大学、今、大阪市立大学と色々な交流があるようでございますけれども、将来的なことは未定でございますけれども、大阪府立大学につきましては、岬町のほうも包括連携というふうにしております。ただ、外国語を取り上げてというところはいておりませんが、町長も国際交流というようなことでまちづくり戦略室のほうで窓口になりまして、学校へ来ていただいたり、多奈川小学校は特に神社・仏閣とかもありますし、そこらへ来ていただいて交流を図っているところです。英語に特化してというようなことはまだ今のところやっておりませんが、ALTの先生が岬中学校を中心に1名入っております。この場を使って何なんですけれども、もう少し人数があればなというような思いも今までもございました。ことしは特にそういう要望はしておりませんが、前にも懸案事項の中で町長とも議論したこともございますけれども、今、中学が1中ということもありますので、一人ということでALTも来ています。府立大学との連携を今後もまた考えていくということでいきたいと思っています。

以上でございます。

田代町長 どうもありがとうございます。

ほかにございませんか。羽畑委員。

羽畑委員 去年1年間、教育会を振り返ってみると、ちょうど曲がり角に来ているんじゃないかと思うことが多かったですね。例えば、非常に命を粗末にする。何ていうんですか、人を殺

しても平気やし、また、殺されてほしいというような、神奈川県座間の事件を見てもですね、高校生の若い子が自殺しに行っているんですね。こんな命を粗末にするような時代が来たら、これは今、ちょうど大変な時に来ているなと思うんですね。もっと命を大事にする教育を進めていきたいなど。去年1年間振り返ってみて、命は地球よりも重いという、そういう教育をこれからやってほしいと。

それから、将来をしっかりと見詰めていない子供たちが多いんじゃないかと。自分の生きていく上での目標というんですか、そんなものをしっかりと現場で持たせるような教育もやってほしいと。

それから、正しい生活習慣をつけていない子供たちが最近ふえてきていると。去年1年間振り返ってみて、そういうふう感じたことがあるので、何としても、この命を大事にしてほしいと、そういう現場の先生方にもそういう気持ちで教育に当たってほしいなど。命は地球より重い、そういうことで去年1年間の教育会を見て、考えました。

以上です。

田代町長 羽畑委員のおっしゃるように、先ほどの説明の中で主体的な学びの中に深い学びとか、対話的な学びというのを先ほど説明していただいたのですが、やはりこういったものは、学校と家庭と生徒と、また地域との交流、また学校でのコミュニケーションづくり、そういったことも必要じゃないかなと思うんです。命を大切にしないというのは、大人も子供も同じような状況が来たことは事実ですし、もっと命を大事にしようということについての学習会もやってもいいんじゃないかなとは思いますが。その点は指導課のほうでは、特別にそういった交流が図れるような授業を行ったりはされてますか。

保田指導課参事 岬町は、人権教育を根幹として取り進めています。ですので、先ほど羽畑委員がおっしゃったようないろんな事件がある中で、各小学校、中学校では、人権教育を大事に、隣にいてる子供たちのことを考える、仲間と仲間、相手の気持ちを考えるというところを、子供たちが生活していく中で、人権を大切にしているというところは、岬町の自慢でもあります。

学校の中だけではなく、本当に地域の方のお話を聞くことであったり、触れ合う場面というのは非常に多いです。他市に比べると、本当に岬町の中での地域とのかかわり、子供と教師のかかわり、保護者と教師とのかかわりというところは本当に深いものがあります。ですので、子供たちが岬町を卒業、中学校を卒業した後にでも、高校になっても、大学になっても、社会人になっても、本当にだめなものだめだと、社会のことをしっかりみつ

めていく子供たちが、本当に私自身もしっかりしているなというふうに感じている次第です。

ことは特に親学習ということで、各小学校、中学校のPTAの方々に大阪府から親学習リーダーという方に来ていただいて、コミュニケーションのとり方であったり、最近、携帯電話が普及していく中で親子の関係が難しくなってきたりとか、そういうようなワークショップも開いていただいておりますし、教職員につきましては、大阪府下で実施されています人権教育の研修に参加をしたりとか、みずから各学校が大阪府下の小学校、中学校へ、岬町の教育を発信しているという場面も多くございます。ですので、本当に命のことに関して、いじめの問題もそうですけれども、岬町の子供たちがしっかり考えて、生きていけるような取り組みを今後とも進めていきたいと思っています。

田代町長 ぜひよろしく願いいたします。

それでよろしいですか。どうぞ。

笠間教育長 1つだけ、今の部分でございませうけれども、羽畑委員につきましては、これはもう毎年、学校教育方針を設定するときに、その意見をいただいています。命の大切さは、子供たちに常に伝えていかなければならないと。これはもう羽畑委員がずっと言っていたておりますし、学校教育方針の中では重点目標の中でも命の大切さというのを伝えていただいていますし、これは今後も継続していきたいというように思いますので、よろしく願いいたします。

田代町長 ほかにございませうか。御質問をいろいろいただいて、本当にありがとうございます。

それでは、御質問はもうないようですので、引き続き、その他について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局、どうぞ。

事務局 ここから非公開（平成29年度全国学力学習状況から見る小中学校別状況と今後の施策についての報告と、いじめ・不登校・暴力行為の状況）

事務局 それでは、今後のスケジュールについて説明させていただきます。

今後は、岬町総合教育会議設置要綱で規定する協議事項が出てきましたら、会議を開催することとなります。

協議事項としては、予算措置を伴う重要な教育施策の方向性の協議や、児童、生徒等の生命・身体に被害が生じ、そのおそれがあると見込まれるなど緊急事態への対処の事項等

がございます。

現時点では次回開催については、今年度は、予定しておりませんが、協議事項があるときは、適宜会議を開催したいと考えております。平成30年度は今回同様、1回の会議を開催する予定で、進めさせていただきます。

また、本日の会議の議事録につきましては、公開することとなりますので、よろしくお願い申し上げます。議事録ができ次第、委員の皆様にも御確認をいただきたいと思っております。

以上になります。

田代町長 ありがとうございます。

ただいま、事務局からスケジュールの件について説明がありましたが、御意見、御質問ございませんか。

(「なし」の声あり)

田代町長 ありがとうございます。

ないようですので、本日は貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。今後は総合教育会議の中で皆様方からの御意見、提言を踏まえて、施策の展開を図っていくこととしております。

本日はどうもありがとうございました。

これをもちまして、平成29年度第1回岬町総合教育会議を閉会させていただきます。委員の皆様には、慎重審議賜り、まことにありがとうございました。どうもありがとうございました。

(午後 3時20分 閉会)